

2 各種委員会報告

2.1 図書委員会

2018年度は図書委員会を4回開催した。各回の主な審議事項は以下のとおりである。

- | | |
|-----------------|---|
| 第1回（6月13日） | ① 2018年度図書館各種委員会委員構成について
② 2019年度教育・研究に関する年度計画書等の提出について
③ 2018年度図書委員会日程について |
| 第2回（7月18日） | ① 法政大学、明治大学及び関西大学図書館との間における図書館相互利用に関する申合せについて
② 明治大学学術成果リポジトリへの成果物登録と公開の許諾について
③ サイエンス・ダイレクト Pay Per View (PPV) 利用方法の変更について |
| 第3回（10月17日） | ① 2019年度予定経費要求について |
| 第4回（2019年2月27日） | ① 2019年度図書予算配分について
② 2019年度図書館各種資料申込みについて
③ 図書の館外貸出及び複写に関する内規の改正について
④ 2019年度図書館開館時間について |

2.2 電子資料分科会

2018年度は以下の日程で分科会を開催した。審議事項は下記のとおりである。

- 第1回（7月11日）：エルゼビア社 PPV の運用変更，明治大学学術成果リポジトリへの成果物登録と公開の許諾，新規学習用雑誌・バックナンバー申込について
- 第2回（10月10日）：新規学習用雑誌・バックナンバー・研究用雑誌・データベース申込，Sage, Taylor & Francis 社冊子体洋雑誌の媒体変更について
- 第3回（2019年2月25日）：2019年度電子資料見直し方針，新規バックナンバー購入，買切データベースについて

2018年度は，PPV の運用変更について検討し，従来の無制限方式（IP 認証）から，利用申請方式（ID 認証）に切り替えることで，他の文献取寄せサービス（ILL/DDS）との差を少なくすること，PPV の利用動向・予算の把握をやすくすることを目指した。本分科会の審議を経て2019年1月以降は利用申請方式に変更された。

前年度までの一連の大型パッケージ契約の見直しにより若干の予算的余裕が生じたことから，研究用雑誌・新聞，電子資料について新規購入申請を再開した。学習用新聞・雑誌4誌（和，冊子），バックナンバー・買切データベース13種（和・洋，冊子6種・電子7種），研究用雑誌・新聞（洋，電子ジャーナル5誌）が新規契約・購入となった（別項「資料購入一覧」参照）。

雑誌・電子資料費については，2017年度からデジタル資料費が大幅に削減された上，外国語雑誌の価格上昇と為替変動はもとより，2019年度からの消費増税が見込まれることも影響し国内資料も含め同規模の契約を維持するのも困難な状況が続いている。大型パッケージ契約解体後も，引き続き個別タイトルを含む本学の利用動向を総合的に把握し，費用対効果も考慮した契約管理を進め，安定的で持続可能性のある教育研究環境を整備する必要がある。

2.3 図書館基礎資料選定分科会

本年度はメールによる審議の結果，選定候補から購入資料を決定した。購入内容は別項「図書館基礎資料購入一覧」の通り。

2.4 江戸文藝文庫選定分科会

本年度は分科会を招集せず、メーリングリストによる会議の形式で協議・選定を行った。
その結果、全3点の資料を選定し購入した。購入資料は以下のとおりである。

- 白縫譚（自筆草稿本）／柳下亭種員作．-- [柳下亭種員自筆]，嘉永7 [1854].
- 蓆簾群馬嘶／彩霞園柳香著；梅堂国政画．-- 金松堂，明治14 [1881].
- 正札附辨天小僧3編／伊東専三編輯；河竹其水披閱；歌川國峯畫．-- 滑稽堂，明治17 [1884].

2018年6月1日～7月11日，中央図書館1階ギャラリーにて「江戸文藝文庫展－水野稔先生の学徳を偲んで」を行い，2017年11月に寄贈された文学部教授故水野稔先生の旧蔵資料全9点（山東京傳の自画賛軸・扇面・短冊類）と図書約70点の展示を行った。展示は日本近世文学会の平成30年度春季大会（於：白百合女子大学）の開催に合わせて行われ，大会参加者の来場も多く見られた。

水野先生の旧蔵資料全9点については保存の観点からデジタル化を行い，DVD2枚に収めて中央図書館マルチメディアエリアで所蔵している（AV/D-185/H）。

2.5 日本近代文学文庫選定分科会

6月に分科会を開催し，日本近代文学文庫選書基準及び選書方法を確認した。
2018年度は全15点の資料を購入した。主な収集資料は以下のとおりである。

- 佳人之血涙：政治小説／[デュール、ベル子原著]；井上勤譯述．-- 自由閣，1887
- 冷熱／尾崎紅葉著．-- 春陽堂，1896.4
- 黒髪：三部作その一／近松秋江著．-- 新潮社，1924.7
- 深見笠／村上浪六著．-- 春陽堂，1894.2
- 机邊の記／永井荷風著．-- 青燈社，1936.4
- 大岡政談／林不忘著．-- 平凡社，1928.7

2.6 学術・教育成果リポジトリ運営部会

2018年度も継続して著作権者への許諾書発送，及び許諾論文のメタデータPDFデータの作成を業務委託により実施した。対象コンテンツは各学部紀要等の学内出版物，博士論文である。2017年度に作成した学術雑誌掲載論文リストをもとにした論文の登録作業も進めた。

主な活動内容

- | | |
|--------------|----------------------------|
| ●2018年5月22日 | JPCOAR 運営委員会出席 |
| ●2018年6月13日 | JPCOAR 広報作業部会出席 |
| ●2018年8月6日 | JPCOAR スキーマ説明会出席 |
| ●2018年10月9日 | JPCOAR 運営委員会出席 |
| ●2018年10月30日 | JPCOAR 図書館総合展 |
| ●2018年12月10日 | 京都大学訪問 |
| ●2018年12月11日 | 立命館大学訪問 |
| ●2019年1月30日 | JPCOAR 運営委員会出席 |
| ●2019年3月13日 | JPCOAR 総会出席 |
| ●2019年3月 | リポジトリシステムを一部改修し DOI リンクに対応 |

2.7 図書館紀要編集部会

2018年度は図書館紀要編集部会を下記のとおり1回開催した。

第1回(8月3日)①第23号の構成について

②第23号の原稿募集について

③学術成果リポジトリへの包括許諾について

④抜き刷り作成の中止について

『図書の譜』第23号を刊行した。(A5版, 116頁, 2019年3月29日刊行, 500部発行)第23号では特に特集は設けず, 前号第22号の特集「明治大学図書館の特色あるコレクション」を引き継ぐ形で, 各種特別文庫の他, 研究用基礎資料の紹介も行った。今回も, 教員, 退職教員, 職員などから多くの論文が寄せられた。吉田館長には巻頭言『図書館とヒューマンネットワーク』の他に, 『特別寄稿 小田急電鉄創業者・利光鶴松の近代—原点としての武蔵五日市深澤権八「私設図書館」—』をご寄稿いただいた。

2.8 書評コンテスト選考部会

第9回明治大学図書館書評コンテストは, 例年通り10月に募集を行い, 41編の応募があった。剽窃チェックの上選考部会員・図書館員有志で採点を行い, 12月12日の会議で受賞者12名を決定した。例年文系学生の受賞が多いが, 第9回は理工学部学生も受賞した。2019年1月30日には表彰式を中央図書館多目的ホールにて, 受賞者交流会をアカデミーコモンカフェパンセにて行い, 書評や読書に対する思いを参加者同士語り合った。また受賞作品集を作成し, 3月と4月に中央図書館及び和泉図書館で開催した受賞作品の展示や, その他図書館内で自由配布した。

なお, 募集に先立ち9・10月に「書評の書き方講座」(講師:伊能秀明 明治大学調査役)を4図書館で開催し, 合計49名の参加があった。

2.9 生田図書館ギャラリー運営部会

生田図書館ギャラリー運営部会は, 生田図書館ギャラリーの計画的な運営を目的とし, 生田キャンパスに所属する図書館副館長を部会長とし, 理工学部及び農学部図書委員各2名をもって組織されている。

2018年度は3月4日に運営部会を開催し, 2019年度ギャラリー展示企画について, 応募案件6件, 博物館企画1件及び生田図書館企画2件からなる全9件について, 展示の開催及び年間展示スケジュールについて承認された。

2.10 図書館活用法運営部会

図書館活用法運営部会は, 授業科目「図書館活用法」を適切に運営することを目的として, 図書委員会の下に設置されており, 図書館長, 副館長, 授業コーディネーター, 職員で構成されている。

今年度, 授業は, 駿河台, 生田, 中野で各1コマ, 和泉で4コマの合計7コマが開講された。会議では, 各授業の実施状況を検証するとともに, Oh-o! Meiji システムの利用, ウェブテストの導入など, 実施方法を工夫することを確認し, 次年度の授業計画, 将来的なあり方について検討を行った。

2.11 閲覧部署連絡会

閲覧部署連絡会は, 図書館のサービスを改善するために, 閲覧担当部署の円滑な運営を目的として, 図書館利用規程に関する事項, 貸出・蔵書業務に関する事項, レファレンス・マルチメディア業務に関する事項, その他連絡会が必要と認めた事項を審議するものである。

2018年度は中央図書館事務長を委員長とし, 中央2名, 和泉1名, 生田2名, 中野1名の各図書館職員計7名で構成された。会議は, 6月20日, 10月5日, 11月30日, 3月28日に開催し, いずれの回もシステム担当者がオブザーバとして出席した。そのほか細かい運用の変更などについては随時メールによる審議を行った。

2018年度の主な審議事項は以下のとおりである。

2018 年度 明治大学図書館年次報告書

① 利用者サービスに関する事項

- ・2019 年度からのリバティアカデミー会員の利用方法変更に伴い、ライブラリーカード発行時の具体的手順等について検討した。受付開始は 3 月からとし、中央図書館では、カウンターの混雑を緩和するため、新たに後日発行の運用を行うこととした。なお、和泉・生田図書館は、即日発行で対応することとした。
- ・消費税率変更に伴うライブラリーカード発行料金の設定について検討した。2019 年 10 月からの料金を決定し、告知及び広報を行うとともに、税表記を改めるため、ホームページ及び利用案内の改定を行った。
- ・明治大学研究特別教授に関する内規の制定に伴い、図書館の利用条件及び運用について検討した。
- ・名誉教授・中野学園教職員のネットワーク利用時の運用変更について検討し、MIND モバイルアカウントを取得することにより、図書館内でのネットワーク利用を可能とする運用とした。

② 他大学図書館との連携に関する事項

- ・「法政大学、明治大学及び関西大学との間における図書館相互利用に関する申合せ」を締結するにあたり、利用条件及び運用について検討し、11 月 1 日より相互利用を開始した。

③ 運用改善に関する事項

- ・大学の休業日に臨時連絡便の運行を 4 回実施し、休日明けの配送量増加の緩和を図った。
- ・ライブラリーカード申込書の更新時における記入の簡素化を図った。
- ・試験期（7 月・1 月）における明大文庫配送の取り置き期間の見直しを行った。

2.12 利用案内編集分科会

利用案内編集分科会では、関係事務室の職員が構成員となり各利用案内の編集を行っている。

今年度の会議では、分科会で取り扱う各利用案内について、単なる焼き直しではなく、それぞれの利用目的、使い方に照らして情報を精査すること、形状の変更も含めた見直しを行うことを確認し、次年度に向けて作成、情報の更新を行った。

2.13 『らいぶ』（図書館報）編集分科会

2019 年度号（通算第 25 号・2019 年 3 月発行）を発行した。『らいぶ』は主に新入生向けに発行しているため、手に取りやすいような表紙になっている。2019 年度号は 2018 年度図書館バッグに採用されたデザインを利用した。巻頭の教員からのメッセージには、図書館長が『小田急電鉄創業者・利光鶴松さんと図書館一学問とは読書であるー』というタイトルで図書館への誘いのメッセージを寄せている。2 ページ以降は、ポータルサービス、明治大学 4 図書館の特徴と館内マップ、各館のイベント・企画やよく読まれた本の紹介、また図書館を上手に利用するための「図書館活用術」など、初めて大学図書館を利用する人を対象にイラストや写真を多く入れて分かりやすい図書館紹介パンフレットとした。A4 版、カラー刷り 11 頁、5,000 部。

2.14 中央学習用図書選書分科会

中央学習用図書選書分科会は、「明治大学図書館中央図書館学習用図書選書分科会運営内規」に基づき、中央図書館事務長を座長とし、座長が指名した中央図書館事務室及び図書館総務事務室の職員により形成される。

本分科会は原則隔週で開催されており、和書 5 社、洋書 3 社の見計らいによる新刊学習用図書の選定や寄贈本の受入可否決定等を行うものである。

2018 年度は、数年間にわたり見直しを行っていた大型・高額の継続図書、追録の削減により、学習用図書費の増額を受けた。見直しに伴い、新規単行図書及び電子ブックの購入を計画的に行うことができた。

電子ブックでは、2017 年度から開始した Maruzen eBook Library の「試読サービス」を通年で実施し、固定で 106 冊、簿外で 49 冊を購入した。この内、2 月、3 月には学生の就職活動に多く利用され、アクセス数世界一を記録した。また、Oxford Handbooks Online の Foundation Collection は各分野の基礎的資料となるため購入した。「Oxford Scholarship Online」、「Kinoden」のトライアルを導入し、電子ブックの充実を図った。

2.15 オンラインサービス WG

図書館 HP の改編について検討した。現在の図書館 HP は、当初図書館職員によって作成し公開された。以降メンテナンスも図書館職員によってなされているが、公開から 10 年以上経過しており、構成やコンテンツが複雑になっている。そのため、図書館 HP の改編について数年来から懸案となっており、当 WG において改編作業を担うこととなった。検討内容としては、広報課が管理する大学 HP に相乗りするか、これまで通り図書館で管理するかという点が大きな課題であった。さらに、図書館 HP の構成を新たに組み上げるのか、現行の図書館 HP を基に見直すのか、コンテンツ自体の見直しをどうするかなど改編内容のみならず、方針、作業体制についても検討が必要であった。根本的は方向性については、親会議である図書館広報部会での協議が必要であることから当 WG での検討は進捗しなかった。

2.16 電子資料 WG

2018 年度は、PPV 運用変更・冊子体洋雑誌の電子切替・リポジトリ関係広報などを中心に、会議に加えメールでの連絡調整により検討・準備作業を進めた。また今年度から電子資料全般の課題を検討するという目的に即し名称を変更した。WG 開催日と議題は下記の通りである。

- 第 1 回（5 月 21 日）： Science Direct の PPV 運用変更，リポジトリ関係業務，洋雑誌の継続・中止・電子切替，新聞・雑誌バックナンバー購入希望受付／選定について
- 第 2 回（6 月 29 日）： PPV 運用変更，リポジトリ関係業務，洋雑誌の継続・中止・電子切替，新規申込一覧（研究用，学習用，データベース，バックナンバー），新聞・雑誌バックナンバー購入希望受付／選定について
- 第 3 回（10 月 1 日）： 新規申込一覧（研究用，学習用，データベース，バックナンバー），バックナンバーの新規購入希望の審議対象，洋雑誌の継続・中止・電子切替について

2.17 リテラシーイベント WG

4 月に和泉・生田・中野の 3 館で新入生向けクイズラリーを実施した際、ポスター等を共有し省力化を図った。また、7 月に中央図書館で大学院生向けに Web of Science, Scopus, Google Scholar を使った英語論文の探し方講座を開催したところ好評だったため、この WG 経由で各館において検討し、生田・中野各図書館でも開催した。講師は中央図書館職員が担当した。

読書推進学生団体 Meiji Book Avenue は、「ビブリオバトル in 明大祭」を 11/3(土)に開催し、4 人のバトラーが約 20 名の聴衆の前でおすすめの図書の魅力を語った。また、8 月から 10 月にかけて、明大生向け情報ウェブサイト「MEIJI NOW」に、メンバー 3 名が図書紹介を掲載した。